

狭い小笠原に3つのウグイス。 どうすればいいの？



栄村 奈緒子

立教大学大学院理学研究科



川上 和人

野生動物研究領域 主任研究員

小笠原の2つの固有ウグイス

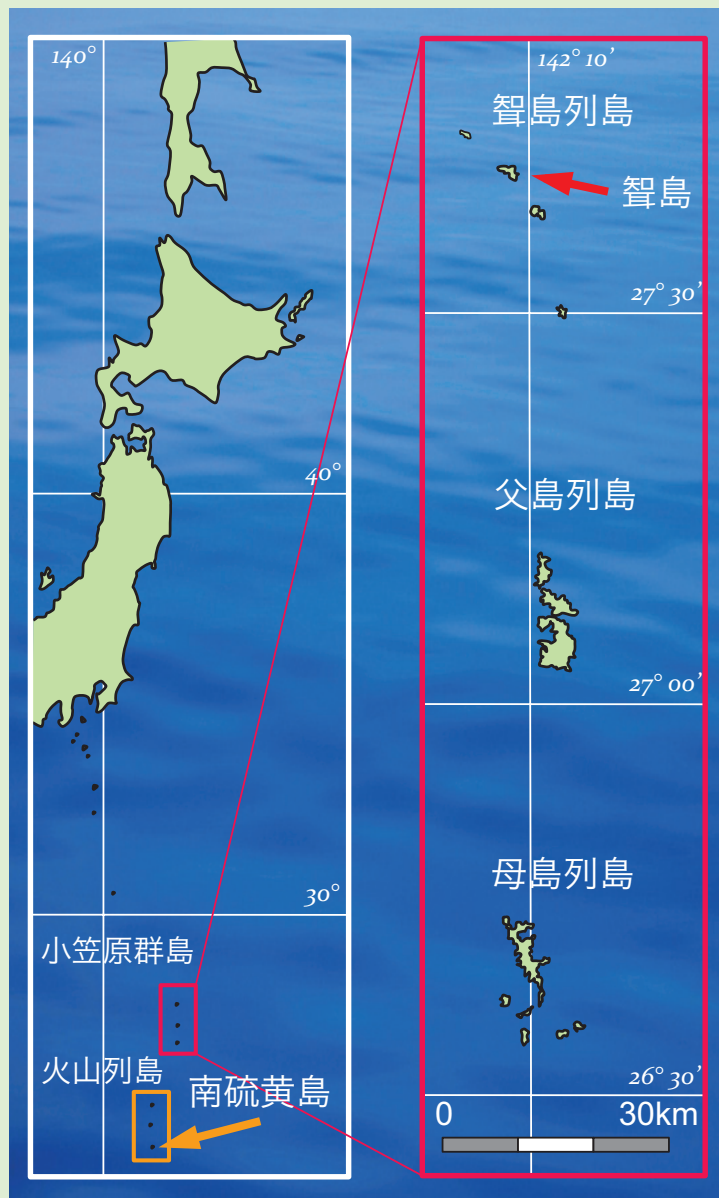
ウグイスは全国に分布し、ホーホケキョと親しまれています。本州から千km南の小笠原諸島にもウグイスがいます。本州のものに比べ体が小さくくちばし（くちばし）が長いことから、ハシナガウグイスと呼ばれています。DNA分析では、約4万〜20万年前に本州周辺から来たと推定されています。

小笠原諸島は、小笠原群島（おがさわらぐんとう 智島、父島、母島など）と火山列島（硫黄島など）からなり、両者は約150 km離れています。翼のある鳥には、150 kmはそう遠くない距離です。祖先は千kmの海を越えてきたはず。今回、小笠原群島と火山列島のハシナガウグイスのDNAを比較したところ、遺伝的に異なる集団であることがわかりました。島に定着した後移動性が低下し、それぞれ別の集団に分化したと考えられます。つまり2タイプの固有ウグイスがいるということです。

このうち火山列島では、以前は3つの島にハシナガウグイスがいましたが、今は南硫黄島という外来種の少ない小さな無人島にしか生き残っており、絶滅するリスクがあります。

第3のウグイスの正体

小笠原群島では、全域にハシナガウグイスがいましたが、そのうち智島ではハシナガウグイスは絶滅したと考えられていました。しかし、最近少数のウグイスが再発見されました。そこで、この



小笠原諸島は、多くの島で成り立っている

ウグイスのDNAを調べたところ、これは絶滅したハシナガウグイスの生き残りではなく、本州周辺のウグイスだとわかりました。北方のウグイスは秋になると南に渡ります。その一部が新たに小笠原に渡来してきたようです。

賀島でハシナガウグイスが絶滅したのは、ノヤギによる森林破壊やネズミによる捕食などが原因と考えられますが、現在ノヤギとネズミは生態系の保全のため根絶され、賀島の環境は改善されてきています。

賀島では、まだウグイスの繁殖は確認されていませんが、調査が難しい無人島であるため、生息の実態はよくわかっていません。ただし、今後この島で繁殖し、定着する可能性があります。そして

賀島でウグイスが増えて他の島へ分布が拡大すれば、小笠原に固有のハシナガウグイスとの間に雑種や競争が起きる可能性もあります。場合によっては、影響が生じる前に捕獲する決断も必要かもしれません。一方で、これも人間を含む生態系の一部と考え、そのままにするという選択肢もあります。

現在の小笠原には、「南硫黄島」、「賀島」、「その他の島」の3タイプのウグイスがいます。今後それぞれの集団をどう管理するかは、進化の舞台として登録された世界自然遺産の管理の根本に関わる大きな課題です。



賀島で捕獲されたウグイス



南硫黄島で捕獲されたハシナガウグイス